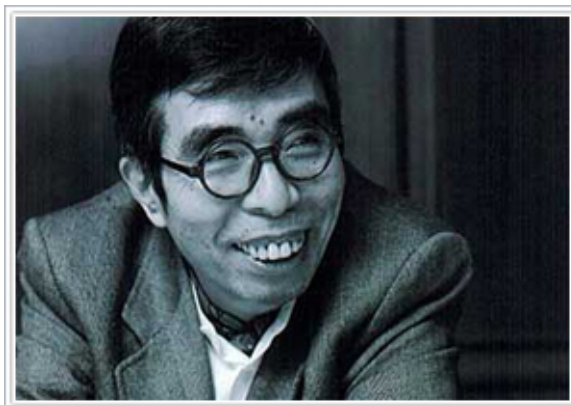


難しいことを易しく  
易しいことを深く  
深いことを面白く

井上ひさし (1934年～2010年)



山形県出身の劇作家、小説家。上智大学外国語学部フランス語学科在学中から、浅草のストリップ劇場・フランス座にて幕間の芝居の脚本を書く。卒業後放送作家となり、人形劇『ひょっこりひょうたん島』で人気を博す。1983年には劇団『こまつ座』を立ち上げ座付き作家として活動。自他と

もに認める遅筆であり、公演初日に間に合わないなどのトラブルを数々おこすも、その出来上がりは第一級との評判であった。代表作は『手鎖心中』『藪原検校』『吉里吉里人』『四千万歩の男』『父と暮せば』など多数。2004年に文化功労者顕彰。

社団法人日本ペンクラブ会長なども歴任した井上ひさしが創作のモットーにしていた言葉である。